

## V 校内研究

### 1. 研究主題

主体的に考え表現し、自己を見つめ高める生徒の育成  
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

#### 1. 研究主題及び副題の設定理由

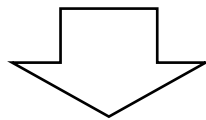
##### (1) 本校の研究の歩み

##### 〈 取組 〉

1. 学びのイメージマップの活用  
校内掲示・生徒が目標を立て、振り返りを行う  
教員がイメージマップを意識して教材研究を行う
2. 布水式授業スタイル  
学びを広げ、深めるための手立ての工夫
3. 生徒が自分の言葉でまとめを書く  
まとめを書けない生徒やすでに書き終えている生徒に対しての個に応じた指導
4. 1分間ライティングの実施  
各学年に適した取り組み方で行う
5. 教科部会を中心とした授業改善  
実践レポートの作成、相互授業参観など
6. ICT の効果的な活用  
授業の他、家庭学習としてミライシードやまなびポケットを行う

##### 〈 成果・課題 〉

- ・生徒と教師が良い学びのイメージを共有し、授業を行うことができた。教師間でもイメージマップを共有する時間が必要。
- ・学びを楽しむことができた生徒が約9割おり、主体的に課題解決に向かう姿勢は見られた。自己の学びを見つめ高めるまでには至っていない。
- ・年々まとめを自分の言葉で書ける生徒が増えつつある。しかし、書けない生徒も約1割おり、きめ細かな個に応じた指導・支援が必要。
- ・授業のまとめを思い出しながら行う生徒も見られ復習として役立ったが、それだけで家庭学習を終わらせてしまう生徒もいる。
- ・他教科の良い事例も知ることができ、授業改善の良い機会となった。個別最適な学びに関する授業改善はまだ不十分。
- ・授業、朝学習や長期休暇の家庭学習での端末使用の機会は増えたが、特に家庭学習での活用の余地はまだある。効果的な活用方法にも課題が残る。



今年度もイメージマップを意識しての授業づくりを進めていき、学びを広げ、深めるための手立てに工夫を凝らすことで、課題解決の場面の充実を図っていきたい。そして、昨年度から課題として挙げられている家庭学習にも生徒が主体的に取り組めるよう、学び方を身につけさせていく必要がある。そのためにも今年度は、昨年度の授業実践を土台に、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実をより意識し、教師間で更なるアイデアを出し合い、教科部会や校内全体研究会で交流していきたい。さらに、家庭学習での ICT の計画的な活用も進めていき、授業と家庭学習の両方で ICT を効果的に活用できるよう、研究・実践していきたい。

(2) 目指す授業像

生徒が多様な考えに触れる中で学びの広がりや深まりを実感し、  
自己の学びや変容を自覚できる授業

(3) 教師の重点的な取組

① 布水式授業スタイル

	生徒の学習活動	過程	教師の指導、支援	
1	本時の課題の提示	つかむ	新たな疑問や興味を生徒にもたせる	
2	課題解決の場面	考える 深める	学びを広げ、深めるための手立てを工夫する。 生徒がつながりに気付くことで主体的に課題解決に向かわせる。	手立ての工夫
3	本時のまとめ (単元・本時の振り返り)	まとめる	本時の課題に対するまとめを自分の言葉で書かせる。 自らの学びの広がりや深まりを実感させる。	評価

※課題、深める、まとめのプレートを活用する

② 学びのイメージマップ(生徒が学びを広げた姿のイメージ)の活用

- ・ より良い学習のイメージを生徒・教師間で共有し、授業を行う。
- ・ 教師が学びのイメージマップを意識して、学びを広げ深めるための手立てに工夫を凝らすことで、課題解決の場面の充実を図る。

③ 授業のまとめを生徒自身の言葉で書く

- ・ 生徒が多様な考えに触れ、主体的に学びを広げ深める活動を行うことで、生徒自身が学んだことや自らの考えの変容、新たな気づきを書けるよう促す。
- ・ まとめを書けない生徒を見逃さず、個に応じた指導を充実して言葉に出せるよう支援し、自己肯定感を育てると共に学力の底上げを図る。

④ 家庭学習での ICT の活用

- ・ 家庭学習で ICT を計画的に活用することで、生徒が自ら学習課題を選択する機会を設けるなど、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫をする。

⑤ 教科部会の充実

- ・ 定期的に教科部会を設定し、授業で意識する学びのイメージマップや ICT の効果的な活用方法を教師間で共有したり、個別最適な学びと協働的な学びのさらなる充実に向けてアイディアを出し合い交流したりするなど、教科部会や校内全体研究会の充実を図る。